

★辰巳刊行書籍をEショップやデリバリーサービスでご購入の場合、送料は次の通りとなります。辰巳書籍お買い上げ合計が¥5,000以上の場合→送料無料。辰巳書籍お買い上げ合計が¥5,000未満の場合→本州は¥500、北海道・四国・九州は¥700、沖縄は¥1,000となります。※その他の地域（淡路島・佐渡島等）は、辰巳・東京本校へお問い合わせください。  
★通信講義カセット& MDと一緒に辰巳刊行書籍をお申し込む場合は、書籍のお買い上げ合計にかかわらず、送料は無料となります。

短答対策の定本。知識の習得・定着を図るのにベスト！

平成  
25  
年版

司法試験・予備試験・ロースクール既修者試験

# 短答肢別本シリーズ

本書は、1問1答・○×形式で司法試験短答式試験問題を編集・収録した、短答対策定番書です。勉強しやすい体系順配列で、各問につき必要十分な解説と参考文献情報を掲載しました。また、持ち運びやすいB6サイズなので、移動中にも手軽に知識チェックが可能です。

本書では、①必ず押さえておきたい重要肢に★マークをつけています。また、②大変使いやすい「判例索引」を掲載しています。加えて、③司法試験予備試験の重要肢までフォローしているほか、④肢別本読者限定でお得な情報を配信する「肢別本メイト」サービスを提供しています。さらに今年からは、⑤虫食い重要条文集を新アイテムとして、⑥辰巳's書籍活用法を特別付録として、それぞれ追加掲載しました。

司法試験や予備試験受験生の直前期の知識総まとめにも、ロースクール生や学部生の基礎固めにも使える、必携のマルチアイテムです。

- |   |   |  |   |
|---|---|--|---|
|  |  |  |  |
| ●1 公法系憲法<br>定価(税込) ¥3,150   | ●2 公法系行政法<br>定価(税込) ¥3,150  | ●3 民事系民法①<br>定価(税込) ¥3,150   | ●4 民事系民法②<br>定価(税込) ¥3,150  |
|  |  |  |  |
| ●5 民事系商法<br>定価(税込) ¥3,150   | ●6 民事系民訴<br>定価(税込) ¥3,150   | ●7 刑事系刑法<br>定価(税込) ¥3,150  | ●8 刑事系刑訴<br>定価(税込) ¥3,150   |

短答と論文の同時学習に役立つ！

平成  
25  
年版

司法試験・予備試験

# 短答過去問パーフェクトシリーズ

司法試験全問題(サンプル問題・プレテスト・平成18~25年)と、予備試験オリジナル全問題(平成23~25年)を完全収録・完全解説した、短答対策の定番本・最新版が登場です。体系順の問題配置で、かつ問題解答が表裏一体なので非常に使いやすく、また解説の重要部分が太字になっておりスピーディな理解が可能です。

さらに、短答と論文を関連させた有機的な学習にも役立ちます。昨年版から追加した「論文リンク」は、両者の関連が一目わかります。また、今年版からは、憲法、民法、刑法については、短答過去問で問われたテーマに関する「論文コラム」を掲載しました。

正答率、出題頻度等のデータも充実しており、人気の肢別本シリーズとの併用で短答過去問対策はパーフェクトです!!

- |   |   |  |   |
|---|---|--|---|
|  |  |  |  |
| ●1 公法系憲法<br>定価(税込) ¥3,255   | ●2 公法系行政法<br>定価(税込) ¥3,255  | ●3 民事系民法①<br>定価(税込) ¥3,255   | ●4 民事系民法②<br>定価(税込) ¥3,255  |
|  |  |  |  |
| ●5 民事系商法<br>定価(税込) ¥3,255   | ●6 民事系民訴<br>定価(税込) ¥3,255   | ●7 刑事系刑法<br>定価(税込) ¥3,255  | ●8 刑事系刑訴<br>定価(税込) ¥3,255   |

# 2013 司法試験

# 合格の形

かたち

# 辰巳恒例 100人 合格体験本

(原稿125本・合格者107人)

全国版

未修者1回合格

既修者1回合格

未修者 Revenge

既修者 Revenge

予備試験合格・司試1回合格

選択科目

無料配付

司法試験 / 答練 Standard  
辰巳法律研究所


Tokyo・Yokohama・Nagoya・Osaka・Kyoto・Fukuoka  
提携校 Utsunomiya・Okayama・Takamatsu・Kagoshima

辰巳法律研究所  
http://www.tatsumi.co.jp

東京本校 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-6 TEL 03-3360-3371 (代表)  
横浜本校 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-5 銀洋第2ビル4F TEL 045-410-0690 (代表)  
大阪本校 〒530-0051 大阪市北区太融寺町5-13 東梅田パークビル3F TEL 06-6311-0400 (代表)  
京都本校 〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上手洗水町670 京都アクトビル6F TEL 075-254-8066 (代表)  
名古屋本校 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-23-3 第2アスタービル4F TEL 052-588-3941 (代表)  
福岡本校 〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-17 西日本ビル8F TEL 092-726-5040 (代表)



## 【File no.4】 論文を書くことが苦手な人ほど、 スタ論を受講することをお勧めします。




ふるせ ともこ  
**古瀬 智子さん**

○早稲田大学社会科学部  
○早稲田大学法科大学院・未修コース 2010年入学 2013年修了

**受験歴** ■新試験 1回

**辰巳受講歴** 2013年対策 スタンダード短答オープン2C / スタンダード論文答練1C・2C / 全国公開模試 他



### 1 司法試験受験を決意した経緯

高校の頃に法律を使った仕事に興味をもったことがきっかけでした。日常生活の中で法律を意識することは少ないけれど、法律をもって、目標を達成しようとする人や正義を実現しようとする人、新しいことにチャレンジする人の手助けをすることができると知り、それを仕事にできればいいなと思うようになりました。大学は社会科学部に進学したのですが、ずっとこのような気持ちが捨てきれず、大学3年の終わりに就活をするのではなく、ロースクールに入学し司法試験を受験しようと決意するに至りました。

### 2 法科大学院入学前～入学後の勉強状況

私は、大学学部は社会科学部に入学したことから、大学1～2年は法律以外の勉強を多くしていました。また、大学1年から読者モデルをしており、ファッションや学外の友達と遊ぶことに夢中で法律の勉強とは無縁でした。しかし、大学3年になり周りの友達が就職の話をし始めるようになると、自分の進路について真剣に考えるようになりました。そこで、学部で選択する科目も法律にかかわる科目を選択するようになり、以前よりもまじめに大学の授業に取り組むようになりました。しかし、やはり法学部ではなかったためロースクール受験科目すべてをカバーすることはできず、未修コースでロースクールに入学することを決めました。

入学後1年はとにかく必死で勉強しました。未修コースといっても、圧倒的に法学部出身の学生が多く、法学部出身ではない自分はスタートにおいて周りよりも遅れをとっていると思いました。そこで、最初の半年は日曜日以外は深夜の1時、2時までロースクールで勉強をしました。特に予習に力を入れ、指定された箇所にとどまらず周辺知識・派生問題についてもしっかりと勉強しました。授業で何を聞かれても答えられることを目標に予習し、授業を復習の場にしていました。

1年の頃から卒業まで、毎週数回友人とあらゆる予備校の演習問題本やロースクールの試験過去問の答案構成をしていました。時間を決めて答案構成をすることで論

文を書く際の訓練にもなり、論点の復習にもなりました。

3年になってからは短答も意識するようになり、**辰巳のパーフェクト等を使い、短答の為の勉強をするようになり**ました。また**論文の書き方やスピード、時間配分など受験の技術的な面を改善していくべく辰巳のスタンダード論文答練（以下「スタ論」）**を利用したり、友人と答案を見せ合い改善点などを指摘し合うこともありました。

1年生の頃に少し無理してでも基礎をしっかりと身につけたことが合格に繋がったのだと思います。2年3年になると授業どころではないといった状況になる人も多いと思いますが、だからこそ時間のある1年のうちにしっかりと基礎を固めて2年生以降の授業についていく負担を少しでも軽くしておくべきだと思います。

### 3 辰巳の講座の利用方法（スタ論・全国模試）

ロースクール3年の秋から、辰巳のスタ論を受講し始めました。**辰巳の答練は論点が豊富で、大変勉強になりました**。また、私は、ロースクールの試験でも字を丁寧に書きすぎずあまり時々途中答案になることがありました。途中答案としない為にはどれくらいのスピードで字を書けば時間内に書き終わることができるのか、私の書くスピードでは最大で答案構成時間はどれくらいとれるのか、配点との関係で答案にどのようなメリハリをつけるべきかといった点を検討することもできました。そのおかげで本番では途中答案を出すことなく全て書ききることができました。

また、三段論法に気をつけて答案を作成することや基本的な型を守って答案を書くという癖もスタ論を通して身につけることができました。わからない問題だつて弱気になって曖昧なことを書きがちでしたが、わからない問題こそせめてきちんと形式を守って書くことを心がけることが大切だと思いました。

論文を書くことが苦手な人ほど、スタ論を受講することをお勧めします。頭ではわかっているにもかかわらず時間内に書ききるにはテクニックが必要ですし、未知の問題との向き合い方も身につけておく必要があります。答練をすることは、ただその問題の論点を知ることができる・復習できるというだけでなく、上記のような点を身につけるうえでも大

変意味があると思います。

また、私は司法試験を受ける年の3月に全国模試も受けました。これにより、**司法試験の日程の過酷さを体験することができました**。もしこの全国模試を受けずに司法試験本番を迎えていたら、**あまりの過酷さにびっくりした**ことでしょう（笑）。司法試験前に同じ日程を体験しておくことで、試験後家に帰った後や中日にどのように過ごすべきかということも予め考えることができます。また、全国模試により試験会場の雰囲気を知ることができたので本番で試験の雰囲気に圧倒されたり緊張をするということもありませんでした。

また、全国模試の成績で私は自信をもって本番に臨むことができたと思います。

### 4 役に立った辰巳の書籍

辰巳の書籍では、**趣旨規範本が大変役に立ちました**。書き込むスペースがあり、そこに答練などで出会った**関連論点や答案で使う言い回しや規範を書き込んだりして直前期に役立つ自分だけの一冊を作ることができました**。

また、ロースクール1年生の頃はえんしゅう本をよく使っていました。定期試験の過去問や他の問題集も使っていましたが、**えんしゅう本を2周まわしてどの問題も完ぺきに答案構成ができる状態で定期試験に臨んだところ、学年で1位の成績をとることができました**。基本的な論点や答案の流れを掴むには良いと思います。

また、短答の勉強をする際には条文・判例本を使うこともありました。

### 5 アドバイス

ロースクールでは私は直前期に見直すことも考え、ノート作りはしっかりとやりました。私は1年の途中から多くの授業ノートをパソコンでとっていたのですが、自分の予習と授業で聞いた答案に反映させるべき正解や新たに知ったことはフォントを変えて、あとから見直してもどこが答案に反映させるべき正しい部分なのかすぐにわかるようにしました。

また、予習段階で必要な判例の年月日や判旨や要約をノートに打ち込んでいました。後から見直す時に大変役に立ちました。

未修でロースクールに入る方は、1年目にしっかりと基礎を勉強して下さい。2年3年になって遅れを取り返すことは極めて困難だと思います。2年3年で既修者と対等に戦うためにはそれなりのレベルが必要ですし、そこで高い成績をとればその後も卒業まで高いGPAを保っていくことができると思います。

私の勉強の失敗点としては、短答対策をするのが遅すぎたということです。短答対策は早ければ早いに越したことはないと思います。ロースクールはやることが多く、なかなか短答まで手が回らないと思いますが、これを後回しにすると本当に最後に後悔することになると思います。また、私は短答は合格最低点さえ超えれば良いとい

ようなスタンスで勉強してきたことも間違いであったと思っています。短答で1点でも多く点をとることは合格するうえで必要なことだと思います。合格最低点は超えていても短答順位が低いと論文の結果が出るまで余計に不安な思いをすることになってしまいますし、合格しても順位の面で短答が足を引っ張ることになってしまうでしょう。

また、司法試験の過去問を解くことを疎かにしていた点も反省点です。同じ問題は どうせ出ないと思っていたり、めんどくさいという思いから長い間放置していたら、全部の問題を解くことができないまま本番を迎えることになってしまいました。司法試験では同じ問題が出ます。まったく同じではなくても、結局同じことばかりを聞いてきたりします。過去問をどれだけ研究していたかが勝敗の分かれ目になったり順位に影響するのだらうと思います。

そして、答練は必ずしてください。たしかに、答案を全部書くと2時間かかってしまうことから、あらゆる演習問題で答案を書く必要はないと思います。私も普段は答案構成ができるかどうかを中心に演習問題に取り組み、うまくできなかった問題の論点をフォローアップしていくという形でゼミを行っていました。しかし、私の場合は、答案構成ができたとしてもなかなか思っているように論文を書くことはできませんでした。時間が足りなかったり、規範をしっかりと立てずにいきなりぐちゃっとあてはめをしてしまったりしてきれいな答案を書くことは大変難しかったです。「時間があれば書けた。」や「模範答案を読めば理解できる。」では意味がありません。内容はもちろん、時間内に答案を自分の力で形にする技術を身につけるために、論文を書くことが嫌いな人や苦手な人ほど答練は嫌がらずにやるべきだと思います。

### 辰巳法律研究所 受講歴

2013年対策 スタンダード短答オープン2C  
スタンダード論文答練1C・2C  
全国公開模試  
短答定期実力診断模試

合格者の **【File no.21】**  
**「スタ論」活用術**




こんどう まさひろ  
**近藤 正篤さん**

○早稲田大学法学部  
 ○早稲田大学大学院法務研究科・既修コース 2011年入学 2013年修了

**受験歴** ■新試験 1回

辰巳受講歴 2013年対策 スタンダード短答オープン1C・2C/スタンダード論文答練1C・2C/全国公開模試



**1 司法試験の受験を決意した経緯**

両親が不動産賃貸のトラブルに直面したことを機に、法的問題が一般市民にもたらす金銭的負担・精神的負担の大きさを少しでも緩和する役割を担うべく、法曹を志望し、司法試験の受験を決意しました。

**2 パーソナルデータ**

この合格体験記に書かれる方法論やアイデアは多様で、どれも一定程度参考になるものとは思いますが、お読みになった方がそれを利用できるか、すべきかを判断なさる場合には、なるべくご自身と比較してどこが似ていて、どこが違うのかを明確に意識された方がよいかと思います（そういった観点から、100人本の体験記を読んで頂けると、単なる読み物以上の効果が得られるのではないかと思います。）。私の場合、

- ①入学前の知識量は通常の法科大学院生レベルよりは低かった。
  - ②復習より予習を重視し、予備校本よりは基本書を重視した。
  - ③文章を書くこと自体は好きであったが、120分で6枚書ききる筆力はなかった。
  - ④自分の可処分時間の全てを、法科大学院の勉強に充てることが可能であった。
  - ⑤択一が大嫌いだった。
- といった感じになるかと思えます。

（①補足）大学時代はサークルに没頭したため、学部法律科目が知識として定着するには至っていませんでした。恥ずかしながら法律の学習を本格化したのは、大学3年の1月からで、法科大学院受験の2日前にようやく予備校のオンデマンド講義を2倍速で聞き終わりました。ただ、必ず各科目の概説書（本当に薄めのものです。）を読み、全体像を意識した上で知識を収納したため、効率的に勉強できたとは思っています。（②補足）法科大学院に拾

ってもらえた以上、ここと心中する覚悟でした。（④補足）毎日朝7時頃～夜11時頃までロースクールの自習室で勉強していました。

**3 択一に関して**

（1）択一で一番大事だと思われるのは『本当の危機感をいつ抱くか』だと思います。参考までに私のことを少しだけお話させていただきます。

とにかくロースクールの講義の予習復習に追われた生活であったため、択一の勉強に手をつけたのは3年の夏休み。しかし、一科目毎に辰巳の『短答過去問パーフェクト』を潰していたため、次の科目をやっては前の科目を忘れ…といった状況で、3年の12月に受けた模試では、約190点しか取れませんでした。

自分がこのような惨状を経験した理由は二つあります。①択一がそもそも苦手であったこと、②論文の成績がそれなりによかったため、危機感が抱けていなかったこと、です。

①はそもそも学者の論文や判例評釈を読むほうが好きだったため、退屈な択一の勉強はとにかく敬遠しがちでした。②については、先の模試の夜、親友に『近藤君、本当に択一やらないと足切りだよ。それでいいの?』と一晩説教されたことで、本当の危機意識が芽生えましたが、どう考えても遅かったと思えます。

（2）以上の経験を踏まえ、私は、短期記憶を長期記憶化する工夫として、「1月～3月の午前中・夜9時以降は択一の時間とする」「前日間違えたものを翌日の午前中にもう一度解いた上で先に進む」「毎日二科目ずつのローテーション方式」を採用した上、**復習を重視すべく、問題を短答過去問パーフェクトとスタンダード短答オープン（第2クール、以下「スタ短」）の問題に絞りました。スタ短は解説も充実しており、分野を跨いだまとめなども付されていることが、選択の要因でした。**

解きすすめているうちに、択一は「六法を用いて問うまでもない当然の知識を問うている問題」と「簡単な論文試験とやっていることの変わらない問題」に峻別できることに気がきました。この気づきは『1～3

月という時間に択一をやっている、それは論文に直結しているのだから、時間を割いても論文の成績が著しく悪くなることはない』という意識に繋がり、自分自身の焦りの解消に非常に役立ちました。

（3）以上の結果、3月末の辰巳の全国公開模試では276点、本番では296点という比較的高い得点を取ることができました。

択一は上がるまでに時間がかかりますが、やれば絶対に上がるみたいです。合格に向けて懸命に努力している皆さんが仲間と一緒に合格するには、択一は最終的に「各々がやるしか」ありません。お願いします、今すぐやって下さい。

**4 論文に関して（基本的な勉強方法）**

基本的な勉強方法（基本書の選択等）は紙幅の都合上割愛しますが、条文知識を入れる際に最も重要なのは、私は各法律の目次だと思います。目次から条文の大まかな位置をまずは100条単位、次は50条単位で押さえた上、これに法体系の全体像をリンクさせ、その上で日常的に知識を入れていくと、知識を現場で引き出しやすいと思います。直前期は法律の目次から条文に飛び、条文の文言解釈が頭に入っているかを確認しました（確認しやすいように、事例問題を解いた際に出来なかった点は全て条文に絡めてエクセルでまとめ、直前期はこれを利用して見直しました。条文の多い会社法では、特に効果的です。）。基本書に関しても、目次から書かれている内容、論点、考察を想起できるか、という方法で知識の確認を行いました。

**5 論文に関して（スタンダード論文答練（以下「スタ論」）活用術）**

（1）私は、**スタ論の度に、①科目毎に『反省ノート』（司法試験の直前に見直すものとして、スタ論を受終わった直後に『手書きで』作成し、実際に司法試験前に見直したもの）を作成すると共に、②自分の答案を見直していました。**この二つの作業は試験のテクニカルな面と内容面をそれぞれ意識しつつ行いましたが、紙幅の都合上、テクニカルな面に関して以下書きたいと思えます。

（2）まず、時間配分に関して。スタ論では毎回、答案構成時間・各設問の答案作成時間をメモしながら受講し、終わった後ノートに記録し、理想的な時間配分（基本的に配点とリンクさせて考えました。）とのズレの意識喚起を行っていました。

（3）次に、分量に関して。司法試験のトップ層の人達は、頭の回転のみならず『筆力』（2時間7～8枚書ききる）のある人間が多いのが事実だと思います。筆力がない人間は、筆力のある人間と戦う方策を考えなければなりません。そこで考えたのが、【a】筆力の把握、【b】『基本は簡潔に』、【c】答案の色塗り分析です。

（筆力把握）について。答案構成時間が25分の場合、40分の場合、50分の場合で、一体自分がどれだけの答案枚数を書けるのかを分析し、ノートに書きました。各設問の分量配分は、この情報に照らして配点割合から逆算し、常に現場で決めていました。とにかくこの作業だけは、早めに行うことをお勧めします。

（基本は簡潔に）について。私は全科目を通じ、答案を作成する上では『説明責任の所在』をかなり意識していました。この『説明責任』というのは、基本的な条文・判例知識で結論が出る側と出ない側を峻別し、『既存のルールから逸脱』する後者にはより重い説明責任が課される、という意味です。

このような観点から事案を見ると、**司法試験では全科目必ず『説明責任』が生じる部分が存在します。そして『説明責任』に行きつくまでの部分が基本的な問題、説明責任を果たす部分が応用問題に対応するのではない**か、さらに**司法試験は実務家相当の思考プロセスを辿っているか否かを採点する試験であるが故、以上の2つの部分を満遍なく記述できるのが理想な答案ではないか（つまり「基本は絶対に削ってはいけない」）**。しかし、説明責任を負う部分の方が冗長になるのが必然なので、『基本は簡潔に、応用は丁寧』という観点から再度自分の答案を見直し、基本が書けているか、更に簡潔に出来ないか、を重点的に復習していました。

最後に**（色分け）**について。**（私自身は、問題提起部分も分けて）スタ論の自分の答案を塗っていました。確認すべきポイントは、綺麗な色分けが可能か否か、全体を見て色の量に偏りが無いか否か、です。**前者は特に『事実と評価の峻別』で問題になり、「抽出された事実（問題文からそのまま抜く）→評価」という順序で色塗りが繰り返される答案が理想的な答案だと考え、それを意識していました。後者は『法律論』と『あてはめ（事実抽出と評価）』との色の量を比較し、なるべく『法律論』の色が少なくなるよう意識していました。問題点は可視化して始めて認識が可能になるので、色分けは自分の問題点を認識するのに効果的かと思えます。色分けが定着すると、だんだん答案を書く際も『ここまではこの色で、ここから先はこの色とこの色で綺麗に塗り分けられるように』といった感じで、何だか絵を描くようなイメージで答案を書くことになり、ちょっと楽しく(?) なりますし、書き方が定着し易いです。

**6 これから司法試験を受ける方へ**

自分の置かれた環境（私の場合は、必死に笑顔で支えてくれた両親や恋人、沢山議論したロー喫煙所の同期、ローの先生方、話を聞いてくれた大学時代の同期…等）を思うと、感謝の念は募る一方、凄まじいプレッシャーも感じることと思います。自分の伸びに不安を感じることもあると思いますが、昨日の自分より今日の自分は絶対賢くなっています。大丈夫です。過去最強で最高の自分で、司法試験に臨んで下さい。心の底から応援しています。

※この原稿は H25 年 10 月 30 日までに寄稿いただいたものです。

既修者一発合格

既修者一発合格



## 【File no.49】

# リベンジ合格に絶対に必要なことは、再現答案を作成して、一人でも多くの合格者に見てもらうこと



いなだ しょうこ  
**稲田 祥子さん**

○東京大学文学部  
○東京大学法科大学院・未修コース 2009年入学 2012年修了

**受験歴** ■新試験 2回

辰巳受講歴 2013年対策 スタンダード論文答練1C・2C / 全国公開模試



### 1 司法試験の受験を決意した経緯

私は、文学部を卒業後、一般企業で営業として勤務する中で、企業法務に興味を持ちました。もっとも、その時点では、まずは実務に触れてみたいと思い、渉外法律事務所のパラリーガルに転職しました。そこでの仕事は非常にやり甲斐がありましたが、仕事への意欲が高まれば高まるほど、もっと主体的に仕事をしたいとの思いが強まり、司法試験の受験を決意しました。

### 2 リベンジ合格に至った経緯

法科大学院修了後すぐの初受験では、短答式は300番台と比較的上位で通過したものの、論文式で3000番台中盤と低迷し、不合格に終わりました。その内訳からも明らかですが、初受験時は論文式の対策・訓練がきわめて不十分であったと痛感し、それからの8か月間は論文式の勉強を集中的に行いました。その結果、翌年2度目の受験で、リベンジ合格を果たすことができました。

### 3 敗因

#### (1) 分析方法

絶対に必要なことは、再現答案を作成して、一人でも多くの合格者に見てもらうことです。科目間の出来・不出来は、短答式を通過していれば、成績通知から把握できます。しかし、自分が抱えている問題点は、合格者に実際に答案を見て指摘してもらわなければ、なかなか気付くことができません。誰が上位で受かったという話は自然と広まるため、可能であればなるべく上位の合格者に答案を見てもらうと、より有益です。合格者も、修習地が決定して課題が送られてくると忙しくなるため、遅くとも10月末頃までに、上記の作業を終える必要があります。

また、合格者に答案を見てもらう際には、どのように受験勉強をしたか、どのような講座・書籍を利用したか、試験当日どのような点に気を付けて問題を解いたか、といったことも併せてヒアリングしておく、自分に最適の試験対策を模索する上で、非常に役立ちます。

#### (2) 私の敗因

成績通知を見ると、得意だと思っていた刑事系と選択科目(経済法)が酷い点数であった上、全体的に点数が伸び悩んでいました。愕然としつつ、再現答案を合格者数人に見てもらい、出題の趣旨を読み込んだところ、以下が主要な敗因であるとわかりました。

- ① 知識はあるが、法的三段論法など論文の基本型が身に付いておらず、合格答案のイメージも掴めていない。
- ② 重要な問題の所在に気付いておらず、気付いた問題についても、どの条文のどの文言に関連して問題となるかが整理できていないなど、論点抽出能力が弱い。
- ③ 時間配分がうまくできておらず、点が入るところの記述が薄くなっているなど、答案のバランスが悪い。

たしかに、初受験時は、答案を書いたり、合格答案を研究したりする作業から逃げ続けていました。しかし、司法試験では、短時間で大量の問題文を読み込み、的確に問題の所在やその軽重を判断して、思考の経路と解決を示す必要があります。採点官を説得する整理された答案を書くためには、論文の訓練と合格答案の研究が不可欠なのだ痛感しました。

### 4 敗因の克服

#### (1) 敗因①ー論文の基本型・合格答案のイメージの習得ー

まず、合格者の再現答案を収集し、自分の答案と比較検討しつつ、どのような答案が本試験で高得点を得られるかを研究しました。再現答案を収集する際は、詳細な順位だけでなく、未修・既修の別や筆の速さなども極力ヒアリングし、自分と似た属性の人の答案を、特に参考にしました。

10月からは、数人で互いの過去問の答案を批判し合う勉強会を始めました。①内容面ではなく形式面のみコメントする、②事前に出題の趣旨・採点実感・ぶんせき本の上位答案を読み込み、それらの裏付けがあるコメントをする、といったルールを設け、毎週1回、2問ずつ、翌年3月まで繰り返し合格答案のイメージを頭に叩き込みました。

また、答練では、たとえば「今日は規範とあてはめの整合性を意識する」など、毎回目標を設定し、少しずつ合格答案との差を埋めるように努めました。

#### (2) 敗因②ー論点抽出能力の強化ー

原則として各科目1冊、演習書をつぶしました(後述)。特に会社法などは、極力事案が長い演習書を選び、問題文のどの事実がどの論点を問いかけているかに注意しながら、答案構成を繰り返しました。

また、初受験時にはほとんど手つかずだった判例集や百選を読み込み、どのような事案で何が争点となったか、またその争点に対応した事実の抽出・評価を判例がどのように行ったかについて、意識的に学習しました。これは、一人では挫折しそうだったので、友人とペースメーカー的な勉強会を組んで取り組みました。

#### (3) 敗因③ー時間配分・答案のバランスの改善ー

私には、筆が遅いにもかかわらず答案構成に時間をかけ過ぎ、また、設問1を書き過ぎてしまう傾向がありました。そこで、①答案構成は30分を目標とし、40分が経過したら構成途中でも書き始める、また、②設問1にかける時間は最初から5分短く設定する、という目標を設定しました。それを答練で実践し、毎回答案のバランスをチェックして、時間感覚とペース配分を身体で覚えました。

4月に入ってからは、試験前日まで毎日1通、時間を計って過去問の答案を書きました。すでに何度か解いているため、本番より10分短い1時間50分で書き、上位答案と照らし合わせてバランスやメリハリをチェックしました。その繰り返しにより、合格答案のイメージを完全に自分のものにしようと努めました。

### 5 利用した講座・書籍

#### (1) 講座

##### ア. 短答式対策

2度目の受験では利用しませんでした。

#### イ. 論文式対策

初受験時に利用した他の予備校の答練は、現場思考の色彩が強く、論文の基本型すら身に付いていない私には合わないと感じました。そのため、辰巳のスタ論(第1・2クール)及び全国模試に切り替えました。スタ論は、論文の基本型から解説してくれ、ゼミ生答案やみんなの答案など、実践的な答案イメージを掴むための資料も豊富に提供してくれるので、私にはとても合っていたと思います。

#### (2) 書籍

##### ア. 短答式対策

未修一発合格者のアドバイスをもとに、初受験時から、過去問集だけに絞りました。以下の方法で過去問集を徹底的につぶすことで、初受験・2度目の受験ともに、280点以上を獲得できました。

- 1 週目：間違えた肢は、解説の重要箇所に黄色マーカーを引く。
- 2 週目：1 週目で間違えた肢のみ解き直す。
- 3 週目：2 週目で間違えた肢のみ解き直し、間違えた肢・不安な肢には、解説のポイントにオレンジのマーカーを引く。

- 4 週目以降：時間短縮のため解くことはせず、解説のみパラパラと繰り返し眺めて、マーカー部分を頭に叩き込む。
- 直前期：いつも間違える肢のみもう一度解き、最後に確認したい肢には付箋を貼る。
- 前日・当日：付箋部の肢・解説のみざっと確認する。

#### イ. 論文式対策

憲法・民法は、受験対策では演習書を使わず、司法試験の過去問(民法は直近の旧司過去問も含む)をつぶしましたが、その他の科目は、1冊ずつ演習書をつぶしました。具体的には、行政法は『事案解析の作法』、民事訴訟法は『基礎演習 民事訴訟法』、会社法は『事例で考える会社法』、刑法は『刑法 事例演習教材』、刑事訴訟法は『事例演習刑事訴訟法』を利用し、以下の方法で答案構成を繰り返しました。

- 1 週目：頭の中で答案構成をした上で、解説を読み、記憶や理解が曖昧な部分は基本書に立ち返って知識を確認する。解説には、規範にオレンジのマーカー、理由付けや重要箇所に黄色マーカーを引いておく。
- 2 週目：各科目1冊のノートに答案構成をし、間違えた箇所等に、形式面=青、内容面=赤で、添削・メモを書き込む。
- 3 週目：2 週目で出来の悪かった問題のみ、上記の構成ノートに答案構成を繰り返し、前回の答案構成と比較検討しつつ上記同様書き込みをする。重要箇所には、黄色マーカーを引いておく。
- 直前期：すべての問題をざっと頭の中で解き直し、解説と構成ノートのマーカー部のみ見返して、最後に確認したい箇所には付箋を貼る。
- 前日・当日：解説と構成ノートの付箋部のみ、ざっと確認する。

また、刑法・刑事訴訟法については、スタ論の解説講義で勧められた、新庄先生の『司法試験&予備試験 刑法・刑事訴訟法・刑事実務 論文虎の巻』がとても良かったです。特に、伝聞については、これのおかげで答案が格段にレベルアップしました。読み物感覚ですぐに読めるので、ぜひ手に取ってみてください。

### 6 これから受験する人へのアドバイス

ぜひ来年こそ、合格を勝ち取って、夢を叶えてください。この体験記が少しでもその一助となれば幸いです。心から応援しています。

#### 辰巳法律研究所 受講歴

2013年対策 スタンダード論文答練1C・2C  
全国公開模試

未修者リベンジ合格

未修者リベンジ合格



【File no.82】

## 趣旨・規範ハンドブックの効果的な利用方法



しぶや あきら  
**渋谷 朗さん**

○北海道大学法学部  
○北海道大学法科大学院・既修コース 2010年入学 2012年修了

**受験歴** ■新試験 2回

辰巳受講歴 2013年対策 全国公開模試 / 2012年対策 スタンダード短答オープン1C・2C 他

既修者  
リベンジ合格

## 1 はじめに

私は、いわゆるリベンジ合格者です。平成25年度司法試験において合格したわけですが、私なりに去年の敗因を掘り下げて考え、勉強方法を工夫し、試験に臨みました。これについては後述しますが、私の合格体験記が少しでも皆様のお力になれば幸いです。

## 2 司法試験の受験を決意した経緯

私は、大学に入学する前から将来の仕事を選択する上で決めていることがありました。それは、人の役に立つことができるか、それをより強く実感できるかということです。私は、このような観点から、法曹という職業に強い魅力を感じ、司法試験の受験を決意しました。

## 3 リベンジ合格に至った経緯

私は、2回目の試験で合格することができました。1回目の試験では、短答式で合格しましたが、論文式で不合格でした。大きな痛手だったのは、論文式の公法系の点数が低かったことです。読者の皆様もご存じかと思いますが、憲法と行政法という公法系に含まれる科目ごとの点数は、受験者であっても知ることができません。ですから、私自身の推測となってしまいますが、特に、憲法の点数が悪かったのかと思います。そして、他の科目では挽回できなかつたという試験結果でした。

## 4 失敗した原因

1回目の試験結果を見る限り、失敗した原因は論文式の公法系の点数が低かったことにあるといえます。つまり、論文式の公法系が弱点であるということです。これが失敗した原因の1つであることは間違いありません。

ただ、失敗の分析をより深く行うべきではないかと思いました。なぜなら、私は、1回目の試験前に辰巳のスタンダード論文答練(以下「スタ論」)(第1・第2クール)や全国模試を受講していましたが、どの科目も点数が安定していないという傾向があったからです。例えば、前回の答練では民事系の点数が高かったのに、今回は民事系の点数が低かったというようなことが何度もありまし

た。また、民事系の中でも民法の点数が高いのに、民事訴訟法が足を引っ張って、民事系全体の点数が低くなってしまったということもありました。このように点数が全く安定していなかったのです。このことから言えるのは、1回目の試験で民事系や刑事系、選択科目も公法系と同程度の点数を取る可能性があったということです。

そこで、点数が不安定である原因を丁寧に分析してみました。すると、新たな発見がありました。私は、論文式を解く上で必要な基本的知識を、利用できる形で理解していないということでした。以下で具体的に述べます。

2012年度のスタ論や全国模試を受けるたびに思っていたのが、知っている問題であれば合格点を取れるというものでした。ですから、単にまだ知識が足りないから論文式の点数が安定しないだけであり、短答式の勉強をしている内に知識が増え、論文式の点数も上がるだろうと考えていました。一般的に言われていることですし、ほとんどのケースでは正しいと思います。ただ、私の場合は例外的なケースでした。実は、受講していた辰巳のスタンダード短答オープン(以下「スタ短」)の早い時期から安定して合格に必要な点数を取れていたのです。確かに、短答式の勉強は論文式の点数アップに繋がります。ですが、論文式を見据えずに、単に判例の規範と判旨だけを覚える方法では、論文式には対応できません。判例の事案をきちんと理解しなければ、どこの部分を論じるべきなのか、どれぐらいの厚みで論じるべきなのか、判例の事案と比較して問題の特殊性がどこにあるのか、判断ができません。

私は、この点に対する意識が足りていなかったのです。このことが1回目の試験で失敗した原因だと考えました。

## 5 原因の克服

それでは、論文式に絞って原因の克服を述べます。

**私がやったことは、辰巳の趣旨・規範ハンドブックを何度も書き写し、声に出して読むことでした。**もちろん漫然と行うだけでは、論文式に対応できません。規範を導いた判例の事案や判旨を思い出すことも必要ですし、どこか疑問に思う部分があれば基本書等で調べるようにしていました。参照されている判例百選や重判について

も、判旨だけではなく、事案や解説を何度も声に出して読みました。そこまですれば事案を深く理解することができますし、応用問題にも対応できる能力が付くと考えて読みました。初めは時間がかかりましたが、慣れてくるとメリハリを付けて行うことができますし、2週目以降はペースが上がりました。2013年度の全国模試において、論文式で高い点数が取れたので、この勉強方法が原因の克服の役に立ったのだと思います。

このように**趣旨・規範ハンドブック**の利用は、**論文式の点数を上げたい人には強くオススメします。論文式に必要な知識がコンパクトにまとまっているので何度も回せる強みがあります。何度も回すことによって知識が定着しますし、新たな発見をすることも多いです。また、書き写すにはこれ以上の分量ですと負担が大きすぎますし、これ以下の分量では必要な知識が漏れてしまいます。**論文式の点数が安定せず、苦勞されている方は、趣旨・規範ハンドブックの利用も検討してみてください。

私は、短答式の点数が論文式と比較して早い時期に安定して合格点を取れるようになったので、趣旨・規範ハンドブックをベースにして論述の勉強をしました。しかし、仮に短答式も論文式の点数も合格点に足りないようであれば、短答式の勉強と論文式の勉強を兼ねさせることも一つの方法だと思います。例えば、短答式の過去問を解いて、疑問点があれば一つ一つ基本書や判例百選で調べて知識を深めるという方法です。

## 6 受験対策

**辰巳のスタ論やスタ短、全国模試は受けられることをオススメします。試験の練習としてはこれ以上の機会はありません。**理由は大きく3つあります。

1つ目の理由は、試験の雰囲気になれることができるからです。司法試験は年に1回の試験ですし5日間にわたる長丁場ですので緊張しますし疲れます。そのため、普段の力を出すのが難しいです。試験の雰囲気を味わうことができれば慣れますし、ペース配分も分かるようになりますので、緊張感や疲労を和らげることができます。

2つ目の理由は、試験時間に慣れることができるからです。論文式は厳しい時間の制約があります。少しでも点数を上げるためには、2時間、選択科目でいえば3時間をいかに利用するかが鍵です。時間配分を体に覚えこませることにより効率的な時間の使い方ができるようになります。

3つ目は自分の力の確認です。答練や模試で成績が良い人は司法試験の合格率が高いです。裏から言うと、成績が悪ければどこか改善すべき点があるということです。勉強の指針を考える上でも自分の力を知ることは大切です。**特に辰巳の答練や模試は他校よりも受講生が多いという強みがあります。自分が合格レベルに達しているかどうかを高い信頼度をもって確認することができるのです。これは非常に大事な機会になります。**たまたま、答練や模試の結果を軽視される方がいらっしゃいますが、結果が悪いのであればじっくりと原因を分析すべきだと思います。必ず原因があります。原因をしっかりと分析し、

その上で適切な対策を取ることが合格への近道だと思います。

このような理由から、辰巳のスタ短やスタ論、全国模試の受講をオススメします。

## 7 私が使用した辰巳書籍

論文過去問 答案パーフェクトぶんせき本  
趣旨・規範ハンドブック  
肢別本

## 8 最後に

司法試験は、誰であっても緊張します。また、長丁場ですので疲れます。そのため、普段の力を出すことは非常に難しいです。必ずどこかでミスをしてしまいます。どの科目でもミス挽回できる程度の力を付けると良いかと思います。



## 辰巳法律研究所 受講歴

2013年対策 全国公開模試  
2012年対策 スタンダード短答オープン1C・2C  
スタンダード論文答練1C・2C  
全国公開模試



【File no.92】

## やるべきことを見極め、必死にやる

	おおにし ひとみ <b>大西ひとみさん</b>	
	○東京大学法学部 ○2012年予備試験合格	
<b>受験歴</b> ■新試験 1回		
<b>辰巳受講歴</b> 2013年対策 スタンダード短答オープン2C / スタンダード論文答練1C・2C / 全国公開模試 他		

## 1 司法試験の受験を決意した経緯

私は、中学・高校のときから漠然と弁護士という職業に憧れを持っていました。友達から悩みを相談されて自分が役に立てたときに喜びを感じたことから、特定の人のために自分の能力や経験を使うということに魅力を感じたからです。その後、大学に入って法律の学習を進めるうちに、身につけるのが難しい専門的な知識を活かして人のためになにかできたら、という思いも強くなりました。

## 2 予備試験合格までの学習状況（法律学習）

私は、大学4年在学中に予備試験に合格しました。予備試験の短答試験及び論文試験の対策は特に、司法試験にも役に立ったと思うため、私が行ってきたこれらの対策について書かせていただきます。

## (1) 基本的知識のインプット

法律の勉強をしようと意気込んで入学したはずが、気づいたら、大学2年生の2月まではサークル活動に没頭する日々でした。1年生の冬から予備校の基礎的な講座を受講し始めましたが、その時点で覚えていることはなにもなく、専門用語に触れて一度理解するという点で意味がある……かもしれない、というような状況でした。「基本的知識のインプット」ということでもできなかったかもしれません。

ただ、2年生から始まった法学部の授業はしっかり受け、定期試験前はかなり時間をかけて授業内容の復習を行いました。私は恥ずかしながら基本書を通して読んだ経験はほとんどないのですが、学部の授業が私にとっては基本書に代替する役割を果たしてくれていたと考えています。

## (2) 論文試験対策のノート作成

大学2年生の3月からようやく、勉強の時間を長くとるようになりました。そこから4カ月ほど論文試験対策の講座を受講し、その復習として、答案の流れや使いやすい表現、注意すべき点などをまとめたノートを自分なりに作りました。その後、答練や学部の授業を受けていくなかで書き変えた部分も多くありましたが、論文試験対策の情報を一元化し、「ここに書いてある知識を確実にして試験に臨もう」と思うことができる大切なノートになりました。

## (3) 1カ月だけの短答試験対策

私は、大学3年生のときにも予備試験を受験しました。短答試験の直前の1カ月間だけではありましたが、そのときの私なりに必死に対策をしました。憲民刑は司法試験の過去問を解き、他の科目については答練の問題を（少しの量でしたが）回しました。

## (4) アウトプットの導入

しかし、短答試験合格にはまったく届きませんでした。い思えば、学部の定期試験すら受けていない科目、つまり、私にとっては「覚える」という作業を一度もしていない科目・分野がほとんどでしたので、当然のことではありますが、私はこの結果にそれなりに焦りを感じました。正確には、この結果に、というよりは、「このまま今と同じような勉強を続けていては来年の予備試験はおろか、どのロースクールにも入ることができないのではないか」という今までの漠然とした不安が突然大きくなって焦った、といったほうがいいかもしれません。

私の勉強に欠けているものは、当時の私とはっきり自覚していました。それは一言で言えば「緊張感」、「負荷」でした。まだ覚えていないことが多いから演習は早い、なによりできないから恥ずかしい、という意識があって演習に取り組んでいませんでしたが、そのために、演習があるから覚えなといけな、という緊張感や負荷を自分にかけることがなく、結果としていつまでも覚えな、という悪循環があったのです。

そこで私は、思いきって変なプライドを捨て、解けないとしても今からやらないと間に合わないからやろう、と辰巳の「予備試験スタンダード短答オープン」及び「予備試験スタンダード論文答練」を受講するに至りました。

実際のところ、最初はほとんど解けませんでした。そのうえ、短答答練にあわせて司法試験の過去問を解き、論文答練にあわせて論文ノートを覚えようとしたのですが、それも間に合わないことがほとんどでした。

しかし、大学3年生の3月まで、ほぼ毎週答練を受けたことで、いわゆる「付け焼き刃」的な勉強は、何度も繰り返しやることができました。「付け焼き刃」という悪いイメージがありますが、出題されそうな大事なところをひとまず押さえる、と考えると、効率的な勉強法ということもできると思います。また、まがりなりにも、問題を読む練習、そして、答案を書く練習は積むことができました。

振り返ると、私が大学3年時に短答試験に落ちた後、演習・アウトプットを取り入れるという選択を思い切ったことからこそ、なんとか予備試験、そして司法試験に合格することができたのだと思います。

## (5) 「覚える」

そうはいっても、付け焼き刃を繰り返していた当時の私としては、まったく合格できる気がしませんでした。それは論文試験だけでなく短答試験についても同じでした。

そこで、短答試験直前の2カ月間は、短答試験対策のみを徹底的に行いました。論文試験に対する不安はもちろんありましたが、もう少し論文試験対策も長く続けるつもりでしたが、ひとたび短答試験対策を始めたなら、そんな余裕はなくなっていました。やったことは、司法試験の過去問といままで受けていた答練の問題（大量です）の、すべての肢を正解できるようになるまで、ひたすら回し、「覚える」ことです。そのなかで、試験当日に確認するファイルをつくることもしました。試験当日は、こ

こまでやったという自信をもって臨むことができました。

短答試験が終わったら、焦ってすぐに論文試験対策の勉強を再開しました。付け焼き刃で覚えたところはもう忘れてるし、それ以外はそもそもきちんと覚えたことがないという状況で、正直厳しいだろうと思っていましたが、とにかく自分の論文ノートを「覚える」という作業を必死で行いました。演習については、解く感覚を忘れないように少し問題構成をする時間をとるくらいでした。

## 3 予備試験合格後の学習状況（法律学習）

予備試験合格後は、とにかく時間がありませんでした。以下、項目立ての必要があるかもわかりませんが、私が行った対策について書かせていただきます。

## (1) 司法試験論文試験の問題形式を知る

合格後、11、12月は、司法試験論文試験の問題形式（と予備試験論文試験の問題形式の違い）を知るため、過去問や答練をできる限り解きました。

過去問の分析は、辰巳の柏谷周希先生の「合格ライン2013本試験論文過去問講座」を活用することで、効率的に行うことができたと思います。もっとも、時間的制約から、全ての過去問について答案を作成することはできず、むしろ答案構成のみで済ませたもののほうが多かったというのが実情でした。

答練は、予備試験に引き続き「スタンダード論文答練」を受講したのに加え、柏谷周希先生の「司法試験合格開眼塾基礎編」で過去の答練の問題を解くなどして、問題量をかせぎ、短い時間内で問題分析をする練習を行いました。

## (2) 選択科目の知識のインプット

1、2月は、私は学部の定期試験勉強で時間をとられてしまい、結果的に司法試験対策という観点からみると、労働法の知識を固める時期となりました（労働法の定期試験も受けたためです）。

労働法の論文ノートをつくり、同時に覚える、ということに多くの時間を費やしたことで、他の科目と同じような段階に引き上げることができたと思います。

## (3) もう一度、「覚える」

とはいえ、3月の時点で、労働法以外の科目はだいぶ長いこと放置されていたような状況でした。そこで私がやったことは、ひたすら、予備試験論文試験の直前に覚えたノートをもう一度「覚える」ことでした。過去問や答練は正直手をつけていないものが残っていましたが、それは、解く感覚を忘れないように問題構成をする素材として使うくらいで、基本的にしるめるかたちとなりました。

## (4) 短答試験対策…？

お気づきの通り、以上はすべて論文試験対策についてです。短答試験対策はというと、正直この時期にはほとんどできませんでした。司法試験短答試験は予備試験短答試験と多くの問題が共通していること、及び、予備試験短答試験の対策は（約1年前にはなりますが）しっかりやったことから、思い切って論文試験対策に時間を回したのです。

具体的には、辰巳の「司法試験全国公開模試」で実力を試し、「スタンダード短答オープン」の問題を数回分解き、あとは、予備試験の短答試験対策としてつくっていたファイルを見直して、当日を迎えました。試験日4日間のなかで一息緊張しました。

## 4 司法試験対策に利用したもの

私が司法試験対策に利用したものについて、すでに触れたものも多くありますが、改めてあげさせていただきます。

## (1) 辰巳の講座

## ①論文試験対策

「合格ライン2013 本試験論文過去問講座」…過去問だけでなく、出題趣旨などの資料もまとめて手に入ります。参考答案例もとても役に立ちました。

「スタンダード論文答練」…出題予想がなされたうえで問題がつけられていることもあり、解いていてひっかかった部分について、その周辺部を含めて復習することで、とても効果的に対策ができると思います。

「司法試験合格開眼塾 基礎編」…演習量をかせぐためにとても役に立ちました。

「司法試験直前予想早まくり」…直前に集中的に復習すべき分野がわかります。新しい知識をインプットすることを目的にするのは、消化不良になることが多いと思われるのであまりお勧めしません。

## ②短答試験対策

「スタンダード短答オープン」…「予備試験スタンダード短答オープン」と同様、解説冊子が充実していると思います。私は、重要な知識をまとめたページを切りとってファイルしておいて、直前に確認していました。

## ③総合

「司法試験全国公開模試」…中日をいれて5日間の長い戦いを一度経験しておくことは、とても大切なことだと思います。当日と同じ試験会場で受けられたことも、下見の手間が省けるだけでなく、本番の雰囲気を知ることができて、とても有益でした。

## (2) ノートなど

短答試験、論文試験ともに、直前に確認するノートやファイルをあらかじめつくっておくことは意識していました。私は、予備試験の際に使っていたものをそのまま利用していました。

## (3) 本

## ①基本書・解説書

基本書の代わりに学部の授業のノートを使っていたといえるので、基本書は、辞書的な使い方をしていたものが少しあるくらいです。

ただ、要件事実については、『新問題研究 要件事実』（司法研修所編、法曹会）、『民事裁判実務の基礎』（大島真一著、民事法研究会）を使って勉強しました。

## ②演習書

演習は講座を受講して行うことが多かったのですが、短答試験対策のために『短答過去問パーフェクト』（辰巳法律研究所）を活用しました。解説がコンパクトでありながら丁寧で、とても使いやすかったです。

## 5 自己の反省を踏まえ、これから受験する人へのアドバイス

私自身の反省として、予備試験受験期に、もっとしっかり司法試験まで見据えるべきだった、ということがあります。とにかく予備試験に集中しすぎていたため、予備試験合格後まで司法試験の過去問を見ることもありませんでしたし、学部の授業も予備試験前に多くとらないようにしたことで司法試験前に一定数の定期試験を受けなければならぬ状況でした。

なので、これから予備試験、そして司法試験を受験する方は、予備試験のあとはすぐに司法試験が待っているということ、頭のほんの片隅でいいので、意識しておく、私ほど予備試験合格後にあせらなくてすむのではないかと思います。ただ、他方で、「ほんの片隅」くらいがいいのではないかと思います。なにより大切なのは、目の前の試験の合格に必要なことを見極めたうえで、それを必死にやることだと思うからです。

当パンフレットの内容に関しては、  
資料をご請求の上、ご覧ください。